

参考：保護者アンケート結果【1学期の結果です。ご覧ください】

<全般考察>

全体的には、設問1から設問15までのすべての設問でA評価及びB評価の肯定的評価については80%以上の評価をいただきました。大明小学校の教育活動について保護者の御理解・御協力、地域の方々の学校支援ボランティアや安全パトロールなどいろいろな面での御支援をいただいたことは、誠に心強く、それが今回の結果にもつながったものと、心より感謝申し上げます。特に、設問1の「学校は教育目標や教育方針を保護者に伝えている」、設問9の「子どもたちは、学校に行くことを楽しみにしている」については、肯定的評価が100%であったことは何よりも喜びを感じているところであります。

一方、肯定的評価が80%以上ではあったものの、C評価及びD評価の否定的評価が15%を超えるものが6項目ありました。そのうち、設問4「学校では、子どもの長所や個性を理解し、教育に当たっている」、設問5「学校は子どもについて悩みや心配事を相談しやすい」、設問6「学校は、子どもについての悩みや心配事に適切に対応してくれる」、設問15「学校と家庭は、連絡や意思の疎通が図られている」の4項目は、学校と児童・保護者の関係についてのものであり、この中でも特に設問5と設問6は否定的評価が20%になっていたことは残念でした。また、設問11「子どもは、「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的な生活習慣が身についている」と設問14「子どもは、家庭や地域の中で、あいさつをしている」は子どもと家庭や地域との関係を示すものであり、子どもたちに「こうなってほしい」という保護者の願いのあらわれでもあるととらえています。

本来、PTA学校委員会に置いて、学校評価についての保護者対象アンケートの御協力をお願いしてから実施する予定であったものが、台風8号の影響でPTA学校委員会が延期になったことを受け、児童を通しての急なお願いであったにもかかわらず、PTA役員51名中45名(88.2%)の方々から御協力をいただきました。誠に感謝申し上げますとともに、次回は100%の御参加を目指してお願いをしていく所存ですので、何卒御協力の程よろしくお願い申し上げます。

<学校教育・学校経営・学校運営について（設問1～8）>

考察1

設問1から設問8については、8項目中5項目が90%以上の肯定的評価をいただきました。全体考察でも述べた通り、設問1「学校は教育目標や教育方針を保護者に伝えている」については100%の肯定的評価であり、今後とも本校教育活動について積極的に保護者に発信して聞きたいと考えています。また、設問2「学校は特色ある教育活動を行っている」はA評価が60%を超える高い評価となりました。特に②地域文化の伝承（大明ばやし）については、1学期に5年生から4年生の指導が数回行われ、5年生が誇らしげに4年生に教えている姿と、『今度は自分たちの番だ』とばかりに一所懸命5年生の指導を受けている4年生の姿勢は微笑ましいものでした。また、児童会役員を中心に6年生が縦割り集団のリーダーとして活動をしている姿もたくましく思われました。

一方、設問4「学校では、子どもの長所や個性を理解し、教育に当たっている」、設問5「学校は子どもについて悩みや心配事を相談しやすい」、設問6「学校は、子どもについての悩みや心配事に適切に対応してくれる」は昨年度1学期の調査と同様の傾向はあるもの若干の改善は図られており、特に、設問5において否定的評価は8%減少しています。しかし、課題であることは依然として変わらずに残されている現状であると考えます。

今後の改善策

各学級は、20数名の1つの集団であると同時に20数名の個としての性質を持っています。この2つの性質をもつ学級経営は大変な努力がいることであり、それぞれの先生方は一生懸命取り組んでいます。しかし、設問4、設問5、設問6の結果から、もう少ししっかりと対応をしてほしいという保護者の願いもうかがえます。児童個々の個性や悩みごとの適切な対応について今までの取り組みを継続していくとともに、学年として、また学校として児童の観察を重ねりながら見ていき、よりきめ細かな対応ができるようチームとして取り組んでいきたいと考えます。また、学校からの文書等について御意見がありました。保護者への通知や文書については管理職のチェックを受けながら、配付する前に必ず一読をするよう徹底を図っていききたいと考えます。

<子どもの様子について（設問9～15）>

考察2

設問10～14については、子ども達に道徳性や社会性が身についているかどうかを尋ねた質問であり、設問15は家庭と学校との連携を尋ねた質問です。

全体考察でも既述した通り、設問11「子どもは、「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的な生活習慣が身についている」は肯定的評価が82.2%あったものの、否定的評価が17.8%であり、保護者が児童に対して基本的な生活習慣を身につけてほしいというより高い願いが込められているのではないかと推測されます。平成25年度の「全国学力・学習調査」における「児童質問紙」における設問1「朝食を毎日食べていますか」で「毎日食べている」は全国で88.6%であり、都市部より地方の市町村の児童の方がその傾向が高いという結果が出ています。あるテレビコマーシャルで「体はご飯でできている」というキャッチコピーがありました。バランスのとれた食事は、健康で健やかな体をつくるものになっています。今後とも学校の保健目標における行動目標の健康三原則（食事・運動・睡眠）の達成に向けて、忙しい朝ではありますが、少し早く起きてみんな朝食を食べるような習慣を確立していただければと思います。

考察3

問14「子どもは家庭や地域の中であいさつをしている」は、社会生活をスムーズに行っていくうえでの慣習や人間関係を円滑にするためのコミュニケーションの力について尋ねているものですが、これらの内容は大人社会の中でも求められるものです。ここでも、否定的評価が17.8%であり課題として残りました。この設問に寄せられたアンケートの中にも「毎朝集合場所まで送っているが、保護者同士は挨拶するが、子どもたちからは挨拶ができない」、「登校班の子どもたちが朝のあいさつをしないことに驚かされました。」などの御意見もありました。気持ちの良いあいさつは、お互いの心を温かくする大切なコミュニケーションであると考えます。

今後の改善策

今年度も児童会によるあいさつ運動が続けられています。6月24日（火）～7月4日（金）まで、「おはようタッチ ～登校班リレーあいさつ～」を行い、児童自らあいさついっぱい運動に積極的に取り組んでいます。また、PTAとして、昨年度に引き続きあいさつ運動の取り組みを行い、総会の折にはPTAの執行委員の皆さんが玄関に立ち、保護者の皆様にあいさつを交わしていました。しかし、このことは学校でも指導をし、集団で取り組んでいても、最後は個人の問題として身につけていかなくてはならないものであると考えます。「大人が変われば子どもが変わる。子どもが変われば未来が変わる」という言葉を信じて、子どもたちに「あいさつをなさい」と教えるだけでなく、子どもの前で自然と気持ちの良いあいさつを見せられる一人の大人として生活をしていきたいと考えます。

考察4

設問15「学校と家庭は、連絡や意思の疎通が図られている」は、昨年度とほぼ同様な結果ではあるものの、否定的評価が15.9%でした。学校における児童、家庭における児童をそれぞれが把握し、共通した認識のもとで児童の教育に当たるためには、学校と家庭の連絡や意思の疎通は大変重要なものであることは言うまでもありません。

今後の改善策

各学級担任が児童の連絡帳に書く時間は、1日の教育活動の中ではごく限られた時間の中でやりくりしているため、一人一人に十分な内容を書くことが難しい現状です。そのため、短い文章の中にも的確で、わかりやすい表現でお伝えすることに努力していきたいと考えます。また、保護者への各通知については約3週間くらい前にと心がけていますが、長期休業の行事予定や、やむを得ず年間行事計画と日程が変更しなければならないときなどは、なるべく早くお知らせできるようにしたいと考えます。また、運動会など御協力をいただくものなどは早めをお願いをするとともに、確認のため当日近くになって再度お願いの通知を配付するなど、学校と家庭共通理解できるような工夫をしていきたいと考えます。